

## 2022年（令和4年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

### 2022年（暦年）段ボール需要予測 14,870百万㎡ 前年比101.7%

足元の日本経済は、新型コロナの影響が続く中で、4～6月の実質GDP成長率は前期比年率で+1.5%と回復傾向が見られたものの、7～9月は緊急事態宣言の長期化や資源・資材の供給制約から同▲3.0%に落込み一進一退の状況が続いている。民間調査機関の多くは、10月以降は緊急事態宣言の解除や供給制約の緩和により回復に向かうと見込んでおり2021年度の実質GDPは2%台後半の成長を見込んでいる。

2021年の段ボール需要は、1-10月累計で103.1%、1-12月累計見込みでは14,620百万㎡（前年比103.0%）程度となる見込みである。2020年12月に当連合会では、2020年の落込みの半分程度の回復を見込んで、2021年の前年比を101.4%（14,300百万㎡）と予測したが、これを上回る見込みとなっている。

2022年度の国内経済は、行動規制の緩和によるサービス消費の回復や経済対策効果はあるものの回復のペースは緩やかなものに留まるとみられており、民間調査機関による実質GDP成長率予測は概ね+2%台後半となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して2022年（暦年）の段ボール需要を14,870百万㎡（前年比101.7%）と予測した。

期間別内訳は、前年の4-9月の落ち込みの反動と回復基調を見込んで、1-3月101.0%、4-9月102.0%、10-12月102.0%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比40%）は、新生活様式の定着による内食需要に加え、自販機や業務用需要の回復を見込み2%程度の伸びと予測。

「その他」（構成比18%）は、高齢者向けの衛生用品、ペット関連に加え、衛生意識の高まりによるマスクや除菌シートが堅調に推移し2%程度の伸びと予測。

「青果物用」（構成比10%）は、北海道地区の干ばつの影響が残るものの、天候が通常であれば全体として前年並み（前年比100%）と予測。

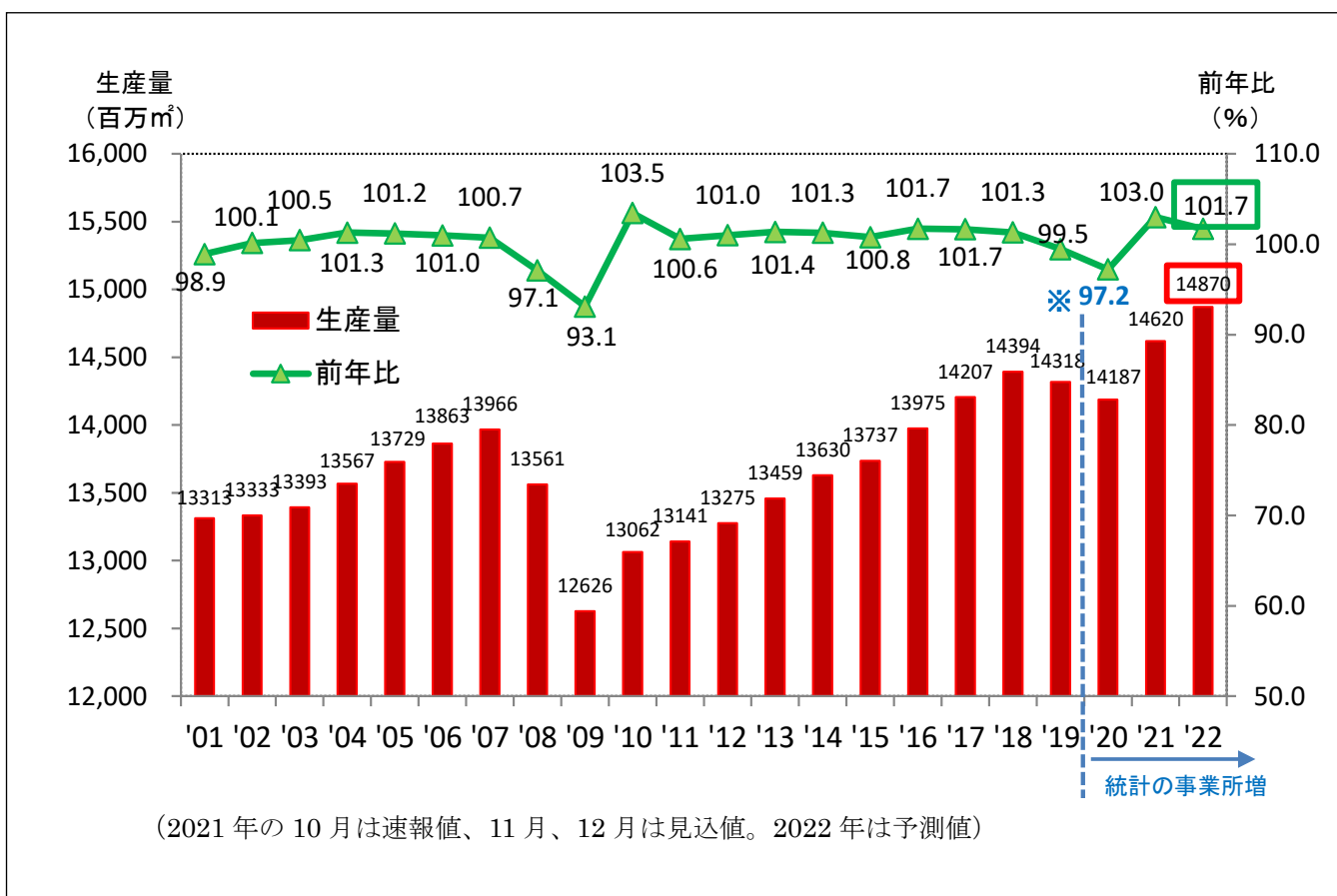
「電気器具・機械器具用」（構成比 7%）については、家電の巣籠り需要は一巡するが、後半に半導体不足の解消に伴う機械関連が回復することを見込み 1%程度の伸びと予測。

「薬品・洗剤・化粧品用」（構成比 6%）は、インバウンド需要は期待できないものの、健康志向の向上、外出機会の増加に伴う化粧品の持ち直しにより 1%程度の伸びを予測。

「通販・宅配・引越用」（構成比 6%）は、新生活様式の定着により E コマースの好調は持続、引越関連も底を打つと思われ 5%程度の伸びを予測。

以上

### 段ボール生産量推移



※ 2020年1月より統計に新たな事業所が追加（約1.9%、276百万㎡/年相当）されたため、前年比については2020年のみ調整している。追加分は2019年以前の生産量には含まれていない。